

平成28年度岡山ESD推進協議会
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 ESDによる持続可能な地域教育力育成コア事業

団体名 岡山市京山地区ESD推進協議会 担当者名 田中純子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

■春の環境てんけん

日時：5月7日（土）9：30～16：30、場所：京山地区、参加対象者：小学生から社会人まで、人数：136名、内容等：地域をてんけんして、持続性を損なっている地域課題を見つけ、解決に取り組む市民を育てることを目指したESDに取り組んだ。午前中に座主川と観音寺用水と岡山県総合グラウンドで、水辺の生き物と水質調査、大気・騒音調査を実施した。絵図町公会堂で昼食休憩後、午後は、京山ソーラーグリーンパークの遊歩道を通って京山山頂へ行き、大気調査と植物調査を実施した。下山後、京山公民館でまとめの話し合い（ふりかえり）を行った。今回も若者重点育成の視点からノートルダム清心女子大学の「人材育成論」の授業と連携したことから、多数の大学生が自主的主体的に関わってもらうことができた。学校からは新しく着任された教頭先生の参加もあった。

■夏の源流体験エコツアー

日時：7月23日（土）7：30～18：30、場所：新庄村、参加対象者：小学生から社会人まで、人数：50名、内容等：流域というつながりの中で、体験を通して、原体験やコミュニケーション能力等を育むことを目指したESDに取り組んだ。新庄村では、朝鍋鷲ヶ山山頂で自然観察や環境調査をし、公民館で昼食（そうめん流しやおむすび等）をとった後、公民館近くの川で水辺体験やリパトレッキングを行った。新庄村の小学生もともに参加し交流を深めた。京山公民館まで戻り、締めめの会を行い解散した。本会のESDのねらいである源流域の自然体験から環境意識を高める、世代間交流やコミュニケーション能力の向上、感動体験から気づきと探求心を高めるという点も成果を出せた。

■秋の環境てんけん

日時：10月30日（土）9：30～16：30、場所：京山地区、参加対象者：小学生から社会人まで、人数：33名、内容：春の環境てんけんと同様に、地域をてんけんして、持続性を損なっている地域課題を見つけ、解決に取り組む市民を育てることを目指したESDに取り組んだ。午前中に主に観音寺用水で、水辺の生き物と水質調査および大気・騒音調査を実施した。今回は、ESD岡山アワードの海外受賞団体の方々なども参加されて、国際交流も含めた活動となった。絵図町公会堂で昼食休憩後、岡山県総合グラウンドで大気調査と植物調査を行った。最後に京山公民館でまとめの話し合い（ふりかえり）を行った。

■ESDサミット、ESD対話（ESDフェスティバル）

日時：1月28日（土）～29日（日）、場所：京山公民館、参加対象者：小学生から社会

人まで、人数：2日間で延べ約1600名、内容等：テーマを「E：えーものを S：子孫の D：代まで 感じようあたたかさ 世界へはばたけ京山ESD」とし、地域教育と人材育成に留意し、子どもから高齢者までが一緒になって学び合える場になるように行った。今回は、保育園と幼稚園の合同発表、大森市長と菅野教育長を囲んでの「京山ESD対話」、小中高生の発表、多文化共生「ワールドパーティー」、防災学習「クロスロード」、劇団公民館☆京山の新作「かわのこい 希望になる樹」、「京山みんなのカフェ」、フードドライブ、手作り体験と展示、地域の絆プロジェクトによる「地域ワークショップ」など多彩なプログラムで開催した。特に、小中高生の発表では、新たに明誠学院高等学校が参加し、吹奏楽部の演奏が会場を盛り上げたほか、烏城高校もボランティア活動など地域貢献活動の発表を初めて行った。「地域ワークショップ」ではテーマを「世代を超えてつなげるため、何ができるのか」と設定したが、今回は中学生・高校生・大学生など若者の参加が40名あり、活気あふれる会となった。大人からも若者からも本音とともに提案が多数だされた。運営に関わるボランティアとしても中学生・高校生・大学生といった若い人達が頑張る場が多くあり、次代を担う人材の実践的な育成にもかなり取り組むことができた。

■冬の源流体験エコツアー

日時：2月4日（土）7：45～18：40、場所：新庄村、参加対象者：小学生から社会人まで、人数：37名、内容：夏の源流体験エコツアーと同様に、流域というつながりの中で、体験を通して、原体験やコミュニケーション能力等を育むことを目指したESDに取り組んだ。新庄村では、野土路の名水の湧水地点で源流環境を体験したあと、黒田邸で、雪の中の野菜掘り、昼食（シシ肉の鍋料理、お餅等）づくりなど、みんなで協力して力を合わせることの大切さと楽しさを実感するプログラムを多く行った。女滝から男滝周辺を雪中トレッキングに挑戦したり、雪遊びなどを行った。このツアーでは、地元の小学生や大人も参加し、県北の文化や自然などの「本物体験」とともに、ESDらしく「関わり」や「つながり」を重視し、「共に生きる力」を高まる活動に力を入れた。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

ESDの視点としては、大きくは継続的に学社連携・全世代合同で地域の環境てんけんを行うことで、持続性を損なっている地域課題や変化に気づき、持続性向上や保全に主体的に取り組む市民を育てるということと、広い視野に立ち、流域というつながりの中で、地区外の源流域で日常にはない自然体験や生活体験ならびに上下流交流を通して、つながりを意識し、原体験やコミュニケーション能力（「生きる力」）などを育むという点を重視して行った。多世代間の学び合いの場を増やすとともに、特に中学生、高校生、大学生といった次代を担う若者達が主体的に参画する場を強化し、地域教育と人材育成のさらなる充実に努めた。地域の多様な人々の参画・つながりづくりという点では、新たに明誠学院高等学校の参加、参画をすすめた。昨年度に引き続き、保育園と幼稚園の参加を強めたことで、その親世代も多くこの活動に引き込むことができた。

3. 取組の成果（参加者の変化、感想など）

参加者の多くが、この活動を通して、地域の中のいろいろな世代の人と学び合う中で、地域の問題を自分ごとととらえ、自分だけでなく地域のみならず共に一緒に取り組んでい

こうという意識がより一層高まったように感じる。

私達は一連のESD活動を通して、「(社会に) 参画する力」「(社会の中で) 共に生きる力」「(さまざまな世代や主体を) つなぐ力」を育み、地域教育力の向上と地域の絆の強化を目指してきたが、エコツアーやESDサミット(ESDフェスティバル)の参加者や企画者が年々多くなり、在住外国人など多様な人々の参画がすすみ、岡山工業高校、烏城高校、明誠学院高校とのつながりが深まったことは成果である。ESDフェスティバルでは、「世代間でふれあう機会が多く地域の絆が深まった」「京山って素敵な人が多いとわかった」「いろいろな団体のことを知ることができた」「いろいろな世代が意見を言い合えるのがいい」「防災や環境など有益な情報が展示・紹介されていた」「京山の人のたちのエネルギーを感じることができた」などの感想があり、多世代にわたって京山の未来について語り合う場があることの意義を多くの人と共有でき、持続可能な地域づくりに向けての実行可能な具体的な提言や提案が出せるなど、当たり前前に学びから行動へとつながるようになってきた。

4. 今後の課題と展望

12年間のESD活動の蓄積、ESD国際会議の成功、ESD岡山アワード地域賞の受賞などにより、ESD活動への参加者も増え、地域への浸透も進んできてはいるが、現実的にはまだ地域社会を変革させるだけの広がりには至っていないと言いき難い。学社連携の気運は年々高まってきているが、まだそれぞれのカリキュラムへのすり合わせが十分とはいえないので、学校教育と社会教育、フォーマル教育とノンフォーマル教育とのすり合わせがよりうまく進むようにしていくこと、より切実な地域課題の掘り起こしや、地域での具体的な行動、ESDツーリズムなどの具体的な実践を行っていくこと、地域の企業やNPOとの協働を強めていくことが課題である。「(E) えーものを(S) 子孫の(D) 代まで」のスローガンを広げ、京山地域の未来やビジョンを語り合い、地域の良いところを継続発展させ、地域課題の解決を目指していきたい。



写真1 春の環境てんけんの様子（5月7日 観音寺用水にて）



写真2 夏の源流体験エコツアーの様子（7月23日 新庄村にて）



写真3 秋の環境てんけんの様子（10月30日 観音寺用水にて）



写真4 ESDフェスティバルの様子（1月29日 京山公民館にて）



写真5 冬の源流体験エコツアーの様子（2月4日 新庄村にて）